

2014年2月19日
博報堂 新しい大人文化研究所

新大人研レポートXIV いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化 その⑦

「旅行は従来の名所観光高齢者から妻優先で自由に滞在の “エスコートダンディ” へ」

60代男性の旅は妻を気づかう「妻優先の二人旅」。 60代女性は夫だけではなく「娘との親子旅」「仲間旅」も。

- ・60代男性が一緒に旅行したいのは「妻」で7割超。これに対し、60代女性の旅したい相手は「夫」「子供」「友人」がほぼ横並びで約5割。
- ・配偶者との旅で、最もパートナーを気づかうのは60代男性。男女間の差が最も開いたのも60代、夫婦の気持ちにややすれ違いの傾向。

いま40-60代生活者が「日本の高齢社会を大きく転換」しようとしています。会社は退職しても社会はリタイアしない人たちが増えています。「博報堂 新しい大人文化研究所」は、これらの世代を総称して“新しい大人世代”と名付け、調査研究を行っています。2012年度は『絶滅! ?する中高年－“新しい大人世代の登場”』と題して連続レポートを発表してきました。このたび全国40-60代男女に対する調査を実施し、分析を行った結果、高齢社会が“新しい大人社会”へと転換する「兆し」が見えてきました。新しい大人世代、とりわけ、リタイアした60代の団塊世代が、今ようやく動き出し、日本の高齢社会そのものが、生活者の力で大きく転換しようとしています。調査結果から読み取れる変化の兆しを、生活のさまざまな角度からご報告します。

その⑦は、「旅」です。

エルダー世代の定年後の楽しみのひとつは「旅行」です。今までの高齢者は、子供の手が離れ、お互いの長年の慰労もかねて、様々な観光名所へと夫婦二人でパック旅行に出かけるイメージがありました。このたびの調査結果では、かつて旅行ブームを牽引したエルダー世代の旅のスタイルに変化が見えてまいりました。新しい大人世代では、夫は旅行相手が妻が一番なのに対して、妻は夫とも行くけれど、子どもや友人との旅行も求めていることが分かりました。

また、夫は観光名所巡りだけでなく、恋愛婚世代らしく、妻の趣味嗜好を考え旅行を計画する「妻優先の二人旅」へと変化しています。これに対し、妻は「親子旅」や「仲間旅」等スタイルが多様化。この傾向は60代が顕著で、男性はディスカバージャパン世代、女性はアンノン族といった、旅行そのものの意識を変えてきた団塊の世代が60代になり、これまでの旅行スタイルに変化をもたらしているようです。

旅慣れた新しい大人世代は、今「自分らしい旅をつくる新しい大人」へと変化しています。これらは、まさに高齢社会そのものが変わる兆です。40-60代が概ね、その傾向にあるため、これが一過性のものでなく、今後、少なくとも20年は続き、高齢社会全体を大きく変えて行くと見られます。

「高齢者」から「新しい大人」への変化 <⑦：旅>

従来の高齢者

夫婦で観光名所
を巡る旅

“新しい大人”

自分らしい旅
二人旅・親子旅
仲間旅

<調査結果>

■ 「旅行に今後行きたい相手」で一番高スコアとなったのは男女共に「配偶者」。新しい大人世代男性60.6%、女性53.6%が回答。男性は年代が上がるにつれ高くなる傾向。

男女差が顕著な60代で見ると、

男性：①配偶者70.2% ②子供28.2% ③知人・友人(表1友人計) 18.7%

女性：①配偶者51.6% ②知人・友人(表1友人計) 51.5% ③子供46.4%

男性は回答にばらつきがあるのに対し、女性は3位までほぼ横並びの結果に。

【表1】 旅行に今後行きたい相手（国内）

	サンプル数	子供	孫	夫・妻などの配偶者	パートナー	親	兄弟姉妹	親戚	異性の友人・恋人	同世代のプライベートな友人	年齢の離れた他年代の友人・知人	価値観考え方を共有できる友人・知人	仕事関係の友人・知人	地域活動を通してきた友人・知人	趣味やスポーツを通じての友人・知人	ひとりで
全体	2700	41.3	9.9	57.1	15.3	9.0	2.0	9.0	19.0	2.5	5.1	1.8	0.9	5.1	10.4	
男性	1350	35.1	8.7	60.6	12.5	4.8	1.9	11.9	9.5	1.6	2.2	2.1	0.7	4.3	12.1	
女性	1350	47.5	11.2	53.6	18.1	13.3	2.1	6.0	28.6	3.3	8.1	1.5	1.1	6.0	8.7	
40代	900	43.8	3.4	53.0	23.7	10.1	2.7	12.4	18.3	2.0	5.2	2.2	0.6	4.7	11.2	
50代	900	42.8	6.9	57.3	16.7	6.6	1.1	8.4	18.3	3.0	5.2	1.7	1.1	4.6	10.3	
60代	900	37.3	19.4	60.9	5.6	10.4	2.2	6.0	20.4	2.4	5.0	1.4	1.0	6.2	9.8	
男性40代	450	40.2	2.9	50.9	19.3	6.7	2.9	15.6	9.1	0.4	2.9	2.9	0.4	4.0	14.0	
男性50代	450	36.9	5.6	60.7	14.2	4.0	1.1	11.6	9.3	3.1	2.2	2.2	0.9	3.8	12.0	
男性60代	450	28.2	17.6	70.2	4.0	3.8	1.8	8.7	10.0	1.3	1.6	1.1	0.7	5.1	10.4	
女性40代	450	47.3	4.0	55.1	28.0	13.6	2.4	9.3	27.6	3.6	7.6	1.6	0.7	5.3	8.4	
女性50代	450	48.7	8.2	54.0	19.1	9.1	1.1	5.3	27.3	2.9	8.2	1.1	1.3	5.3	8.7	
女性60代	450	46.4	21.3	51.6	7.1	17.1	2.7	3.3	30.9	3.6	8.4	1.8	1.3	7.3	9.1	

18.7%

51.5%

■現在婚姻中の男女に「配偶者との旅行で心掛けていること／今後心掛けたいこと」を尋ねたところ、最もパートナーを気づかうのは男性60代で、唯一50%を超えている。女性60代は39.5%となり、60代夫婦にややすれ違の傾向。

【表2】 配偶者との旅行で心掛けていること／今後心掛けたいこと（婚姻している人ベース）

	サンプル数	ガイドブックなどを参考に、観光スポットをよく回る	トを手際よく回りたい	がない場所に書かれていたり	イベントに参加したり	相手の趣味や嗜好を見て、それに行く	た場所に行く	特にない
全体	2029	33.2	15.1	44.4	30.0			
男性	1007	35.7	16.1	48.7	24.1			
女性	1022	30.7	14.1	40.1	35.8			
40代	592	37.7	16.7	42.9	28.4			
50代	706	32.6	15.9	41.9	30.9			
60代	731	30.2	13.0	47.9	30.5			
男性40代	271	42.4	18.5	43.5	23.6			
男性50代	344	34.9	16.6	45.3	26.5			
男性60代	392	31.9	14.0	55.1	22.4			
女性40代	321	33.6	15.3	42.4	32.4			
女性50代	362	30.4	15.2	38.7	35.1			
女性60代	339	28.3	11.8	39.5	39.8			

<ご参考>

■今後の旅行スタイルは、「全てがFIXされたもの」ではなく、「自分で決める旅」への意向が、男女間・世代間なく高い。約半数が「移動・宿泊・行動を自分で決めたい」と回答。

旅行に一緒に行く相手の趣味嗜好を考慮しながら、旅程をカスタマイズする新しい大人の姿が見えてきました。

【表3】今後の旅行意向

サンプル数	移動・宿泊・行動を自分で決める			移動・宿泊・行動をFIX			
	決めたい	どちらともいえない	決めたくない	FIXしたい	どちらともいえない	FIXしたくない	
全体	2700	55.7	33.7	10.6	36.1	42.3	21.6
男性	1350	54.4	35.0	10.6	29.4	46.5	24.1
女性	1350	57.0	32.3	10.7	42.9	38	19.1
40代	900	55.9	31.7	12.4	34.0	41.8	24.2
50代	900	56.3	35.1	8.6	36.2	42.4	21.3
60代	900	54.9	34.2	10.9	38.2	42.6	19.2
男性40代	450	53.6	34.2	12.2	29.1	45.8	25.1
男性50代	450	54.4	36.4	9.1	29.6	47.6	22.9
男性60代	450	55.1	34.4	10.4	29.6	46.2	24.2
女性40代	450	58.2	29.1	12.7	38.9	37.8	23.3
女性50代	450	58.2	33.8	8.0	42.9	37.3	19.8
女性60代	450	54.7	34.0	11.3	46.9	38.9	14.2

■国内で行ってみたいところは、1位：北海道、2位：沖縄、3位：九州。

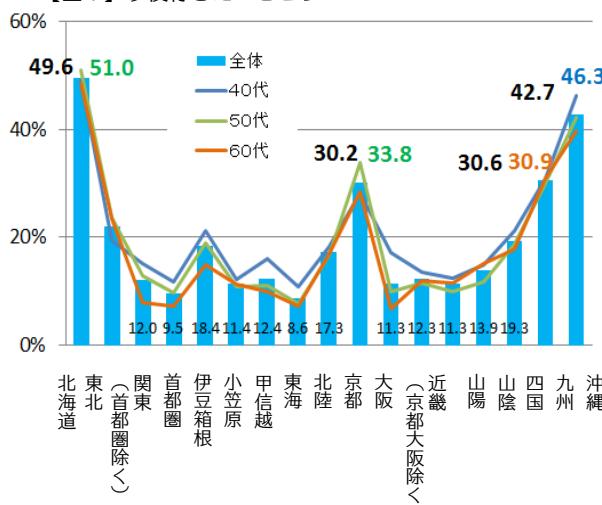
■海外で行ってみたいところは、1位：西欧、2位：ハワイ、3位：豪州。

【国内旅行のディスティネーション（意向）】

n=全体2700 年代各900

首都圏在住=1582 大阪・京都・近畿圏在住=243

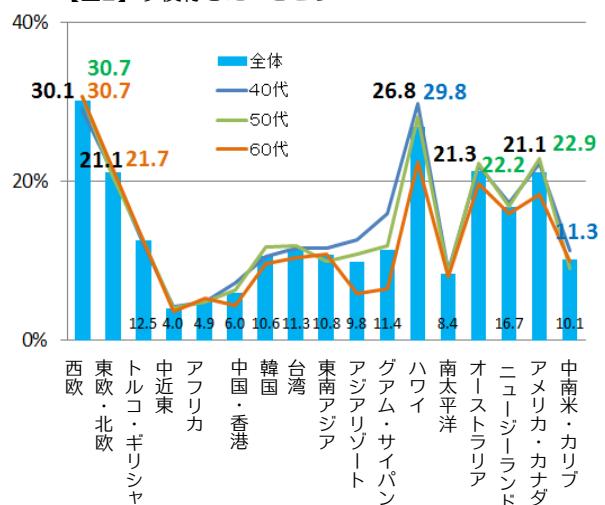
【図1】今後行きたいところ



【海外旅行のディスティネーション（意向）】

n=全体2700 年代各900

【図2】今後行きたいところ



<調査概要>

- 表1、表2、表3
- 図1、図2

調査主体：博報堂 エルダーナレッジ開発 新しい大人文化研究所

調査対象：40～60代男女

調査主要：インターネット調査

調査エリア：首都圏（1都3県）+中小都市（首都圏および政令指定都市、岩手県・宮城県・福島県を除く）※首都圏以外の政令指定都市、札幌市、仙台市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市

調査：サンプル数：2700名、実査：2012年12月

※上記の条件のもと、調査を実施しています。

博報堂 エルダーナレッジ開発 新しい大人文化研究所 過去のレポート一覧

※過去のレポートは、下記URLにてご覧いただけます。

<http://www.h-hope.net/> (新しい大人文化研究所WEBサイト)

<http://www.hakuhodo.co.jp/> (博報堂WEBサイト → 「ニュースリリース」 → 「調査レポート」)

- ・ HOP E レポート I 元気で意欲的な「ニューエルダー」の登場 (2001.5.21)
- ・ HOP E レポート II エルダー世代から見て公共サービスや高齢者への工夫はどの程度進んでいるのか (広告分野含め) (2001.7.10)
- ・ HOP E レポート III エルダー世代が現在楽しみにしている付き合い・コミュニケーション (2001.8.21)
- ・ HOP E レポート IV 65歳以上の「親」世代が「子」「孫」世代とどうコミュニケーションしているのか (3世代コミュニケーション) (2001.9.7)
- ・ HOP E レポート V エルダー層のお金に対する意識調査 (2001.11.9)
- ・ HOP E レポート VI いま、ラジオがエルダーを動かす (2001.11.29)
- ・ HOP E レポート VII エルダー世代の旅は「夫婦二人きりで、贅沢に！」 (2002.3.26)
- ・ HOP E レポート VIII 50代男女に聞いた「言われてうれしい言葉」～[50代調査速報] (2002.7.12)
- ・ HOP E レポート IX 65歳以上のパソコン使用率：2年間で2.7倍、携帯電話使用率は2倍 (2002.10.21)
- ・ HOP E レポート X エルダーの3分の2はお金に苦労しない～「50代・60代のお金に関する意識」 (2003.3.11)
- ・ HOP E レポート 増刊 「新しい大人文化」創造のヒント (公式) を発表します。開けひま。 (2003.10.8)
- ・ HOP E レポート X I 夫だけが信じる「ウチは大丈夫」～「50代夫婦のパートナー評価」 (2003.12.12)
- ・ HOP E レポート X II 3食きっちり、エルダーは食べることが楽しみな「食生活優等生」「エルダーの食生活調査」 (2004.2.19)
- ・ HOP E レポート X III 「いまは健康」だが、「今後の健康」・「病気のお金」に強い不安。 (2004.4.22)
- ・ HOP E レポート X IV 3世代とも「他世代と、もっとコミュニケーション」したい。 (2004.7.14)
- ・ HOP E レポート X V 団塊リサーチ(1) 「団塊夫婦の定年意識」に関する調査 (2004.9.8)
- ・ HOP E レポート X VI 団塊リサーチ(2) 「団塊世代のエンタテイメント消費調査」 (2005.4.15)
- ・ HOP E レポート X VII 団塊リサーチ(3) 「団塊世代のファッショントレンド調査」 (2005.7.20)
- ・ HOP E レポート X VIII HOP E サーベイ2005 最新データ「エルダーの情報収集とタッチポイント」 (2005.9.8)
- ・ HOP E レポート X IX 「団塊世代～定年(引退)後のライフスタイル調査」 (2005.10.15)
- ・ HOP E レポート X X 「団塊男性、定年後に目指す『男のロマン』調査」 (2006.5.10)
- ・ HOP E レポート X X I HOP E サーベイ2006 「団塊世代 人生60年の棚卸し」 (2006.11.24)
- ・ HOP E レポート X X II 「団塊世代 60歳以降の人生設計」 (2007.2.20)
- ・ HOP E レポート X X III 2007年団塊リタイヤ開始(1) 「団塊世代 退職金の使い方」 (2007.4.26)
- ・ HOP E レポート X X IV 2007年団塊リタイヤ開始(2) 「団塊世代 今後の生活と暮らし方」 (2007.6.26)
- ・ HOP E レポート X X V 2007年団塊リタイヤ開始(3) 「夫婦の関係」 (2007.7.24)
- ・ HOP E レポート X X VI “絶滅!?”する中高年” シーンズ”フィフティ・インフルエンサーの登場 (2009.2.5)
- ・ HOP E レポート X X VII 団塊夫婦調査(1) 「夫婦はやはり“すれ違い”!?」 (2009.4.9)
- ・ HOP E レポート X X VIII 団塊夫婦調査(2) 「夫婦関係改善の手立て」 (2009.4.20)
- ・ 新大人研レポート I ”新しい大人世代“の人生のとうえ方(2012.1.19)
- ・ 新大人研レポート II ”新しい大人世代“の言われて嬉しい言葉(2012.2.1)
- ・ 新大人研レポート III ”新しい大人世代“の コミュニケーション(2012.4.16)
- ・ 新大人研レポート IV ”新しい大人世代“の健康意識 (2012.5.31)
- ・ 新大人研レポート V ”新しい大人世代“のお金に関する意識 (2012.8.27)
- ・ 新大人研レポート VI ”新しい大人世代“の社会意識 (2012.9.3)
- ・ 新大人研レポート VII ”新しい大人世代“の夫婦関係 (2013.2.26)
- ・ 新大人研レポート VIII いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その①おカネ (2013.07.31)
- ・ 新大人研レポート IX いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その②食 (2013.9.5)
- ・ 新大人研レポート X いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その③メディア (2013.11.6)
- ・ 新大人研レポート X I いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その④社会性 (2013.11.28)
- ・ 新大人研レポート X II いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その⑤クルマ (2013.12.25)
- ・ 新大人研レポート X III いま高齢社会は”新しい大人社会“へと大きく変化 その⑥住 (2014.2.4)

「博報堂 エルダーナレッジ開発 新しい大人文化研究所」（新大人研）について

当研究所は、「博報堂エルダービジネス推進室」（2000年設立）を前身とし、2011年2月に設立された、40～60代生活者の意識・行動を研究する専門組織です。従来の中高年層の間で一般的であった意識やライフスタイルとは異なる、新しい40～60代が誕生しています。当研究所では、年を重ねるごとに前向きな意識を持つ、この新しい中高年生活者を「新しい大人」と名づけ、少子高齢化社会にプラスのインパクトを与える重要な存在として調査・研究および企業向けコンサルテーション業務を行っています。今年度は『新大人研レポート～いま高齢社会は“新しい大人社会”へと大きく変化～』を連続シリーズで発表していく予定です。

所長：阪本節郎（さかもと・せつろう）



1975年早稲田大学商学部卒業。(株)博報堂入社。食品・トイレタリー・自動車・OA・金融等のプロモーション企画実務を経て、プロモーション数量管理モデル・対流通プログラム等の研究開発に従事。その後、商品開発および統合的な広告プロモーション展開実務に携わりつつ、企業のソーシャルマーケティングの開発を理論と実践の両面から推進。地域社会・NPO・環境・高齢者・教育サイトなどのテーマに取組む。2000年エルダービジネス推進室開設を推進し、2011年新しい大人文化研究所を設立、現在に至る。

著書 「巨大市場『エルダー』の誕生」（プレジデント社2003年7月、共著）、「団塊サードウェーブ」（弘文堂2006年1月）。「団塊の楽園」（弘文堂2007年2月、共著）。